

令和3年度 全国学力・学習状況調査

## 本校児童の学力・学習状況の分析及び改善策について

初冬の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本日配付の学校だよりで今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要についてお知らせしておりますが、さらに詳しい状況分析及び改善策についてお知らせをいたします。

つきましては、これらの課題改善に努め、子どもたちに確かな学力を身に付けさせていきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力の程をよろしくお願いいたします。

### 1. 平均正答率からの分析

(1) 本校児童の教科別理解度（全国平均正答率との比較）

教科	国語	算数
結果	上回っている	やや下回っている

(2) 本校児童の領域別理解度（全国平均正答率との比較）

国語	領域	言葉の特徴や使い方に関する事項		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
	結果	やや下回っている		上回っている	上回っている	上回っている
算数	領域	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
	結果	やや下回っている	やや下回っている	やや下回っている	やや下回っている	上回っている

### 2. 各教科の現状及び改善策

現状（○：全体的な結果 ◎：良かった点 ●：課題となる点） 改善策：☆

#### 【国語】

- 「知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）」に関する問題が全国の平均正答率をやや下回りましたが、それ以外の領域では全国の平均正答率を上回っています。
  - ◎「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の平均正答率が、全国を上回っています。また、記述式問題に対する平均正答率が、全国よりも高い結果となっています。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力や、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力が身に付いていることがわかります。
  - 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の平均正答率が全国平均をやや下回っています。主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を捉える力に課題が見られました。
- ☆授業冒頭の3分間言語タイムでの漢字習得や言語に関するドリル時間の確保の取組などを進めます。説明的文章の学習をもとに、文章構成を意識しながら自分で論述する取組みを続けるなど、日常的に継続した実践に取り組めます。

#### 【算数】

- 「データの活用」領域の問題が全国の平均正答率を上回り、それ以外の領域では全国平均をやや下回りました。
  - ◎記述式問題に対する平均正答率は、全国平均を上回りました。
  - 問題の情報量があり、その情報の中には、参考にしなければならないものや解を求めるのに直接必要ではないものが混在していて、戸惑った児童が多かったです。相手が尋ねていることを正しく理解し、的確に答えていく力に課題が見られました。
- ☆算数科の学習の流れについては、今後も習熟の時間の確保を重点とし、授業冒頭の3分間復習タイムの位置付けなど、基礎基本の確実な定着に力を入れます。数学的な考え方を高める指導の工夫とともに、自分の考えを文章や言葉に表して説明し合う活動などを取り入れていきます。

※ 各教科で本校児童にとって「よくできた問題」「課題となった問題」と、その問題の趣旨や重要点を紹介しておりますのでご覧下さい。

### 3. 児童質問紙の結果から

#### (1) 全国平均の上回っている項目（特徴的なもの）

- ① 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- ② 毎日、同じくらいの時刻に起きている
- ③ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている
- ④ 自分には、よいところがあると思う
- ⑤ いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う
- ⑥ 自分でやると決めたことは、やりとげようと努力している
- ⑦ 人が困っているときは、進んで助けている
- ⑧ 人の役に立つ人間になりたいと思う
- ⑨ 学校に行くのが楽しいと思う
- ⑩ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ⑪ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う
- ⑫ 家で自分で計画を立てて勉強している
- ⑬ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている
- ⑭ 普段、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータ・携帯型・スマートフォン）時間  
※3時間以上の割合が低い

#### (2) 全国平均の下回っている項目（特徴的なもの）

- ① 学校が休みの日の、一日当たりの勉強時間※3時間以上
- ② 新聞を読んでいる
- ③ 今住んでいる地域の行事に参加している

#### 【質問紙の結果から見える課題と改善策】

朝食を毎日食べている児童と毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合が全国比よりも高くなっています。自分にはよいところがあり人の役に立つ人間になりたいと考えている児童、話し合ったり、助け合ったりすることの大切さを理解し経験している児童が多いです。今後も、各行事や特別活動、教科の学習等の具体的な場面で、支持的風土のある学級づくりを中心に自己肯定感を高める指導を継続していく必要があります。

学習する意味を理解している児童が多いことから、日常の授業での落ち着いた姿につながっていると考えられます。今後も、学習規律の定着（麻小スタンダード）を進め、落ち着いた中での学習、学力の向上につなげます。

例年、地域の行事に参加している児童の割合が低くなっています。コロナ禍の影響により、そのような機会が少ないことが影響していることが考えられますが、今後も、状況を見て学校として地域の行事の紹介や参加の呼びかけ等を継続していきます。家庭学習の時間が全国平均よりも短い傾向となっています。学校とご家庭・保護者のみなさんと協力しながら、取組を進めます。

### 4. 具体的な改善策について

- (1) 日常のテストの結果や学習状況の分析・考察をもとに、指導方法工夫改善に係る教諭、支援員や学習指導員、学習サポート教員等の配置を工夫し、個に応じた指導の充実を図ります。
- (2) ICT機器の有効活用により、わかりやすい授業づくりなどの改善に役立てます。また、「国語・算数の一単位時間の学習の流れ」（言語タイム・復習タイム、課題把握、思考・意図的交流、終末の振り返り、まとめ、定着・習熟時間の設定）の徹底を図ります。
- (3) 九九検定・たしひき検定等の各種検定、百マス計算の実施などにより、基礎・基本の確実な定着と繰り返し学習の徹底を図ります。
- (4) 全国学力・学習状況調査および標準学力調査の過去問題の活用や、チャレンジテストの実施を通して、出題傾向や時間配分を踏まえて問題に取り組む力、最後まで諦めずに解答を記入・選択する力などの育成を図ります。
- (5) 家庭学習の手引きを活用し、保護者との連携により家庭学習の習慣化に取り組みます。年4回の家庭学習調査を実施し、児童をサポートします。また、学習意欲の向上、自己肯定感を高めるためにキャリアパスポートを定期的に活用します。

※ これらの改善策を実効性のあるものとするためにも、生活習慣の見直しや家庭学習の習慣の確立が必要になってきますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

【よくできた問題】

説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文をみつけて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見つけたりすることができる。

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

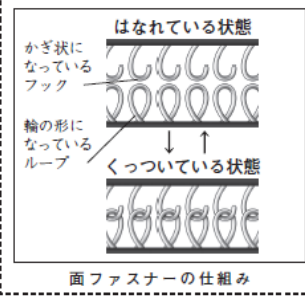
面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができる、とても便利な道具です。

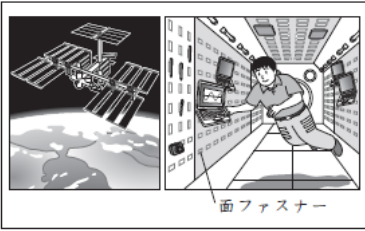
面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていきました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせる事ができる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げられました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる利便性が追求されています。



面ファスナーの仕組み



国際宇宙ステーションとその内部

◆文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができます。

- 1 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。
- 2 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
- 3 面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。
- 4 面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

【課題となった問題】

道筋の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて書き方を工夫したりしながら、自分の考えを主張する文章を書くことができる。

◆イ 文の中における主語と述語の関係を抑えることができるかどうかをみる問題です。

一文の中に、主語と述語が複数ある文において、主語と述語の関係を抑えることのできる力の育成が必要です。

◆ウ 文の中における修飾と被修飾との関係を抑えることができるかどうかをみる問題です。「すぐに」が動きを表す語句に係って、文の意味を詳しくすることの理解を深める指導が必要です。

文の構成を意識した読み取り、学年を越えた継続的な指導が必要と考えます。

(2)

丸山さんは、部イとオの文について、言葉の使い方を確認しています。次のイの文について、部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

イ 時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。

- 1 みんなが
- 2 使っていた
- 3 一輪車が
- 4 かたづけられずに

次のオの文について、部「すぐに」はどの言葉をおまわしくしていますか。適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

オ その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

- 1 遊び終わったら
- 2 遊具を
- 3 かたづける
- 4 むずかしい

【よくできた問題】

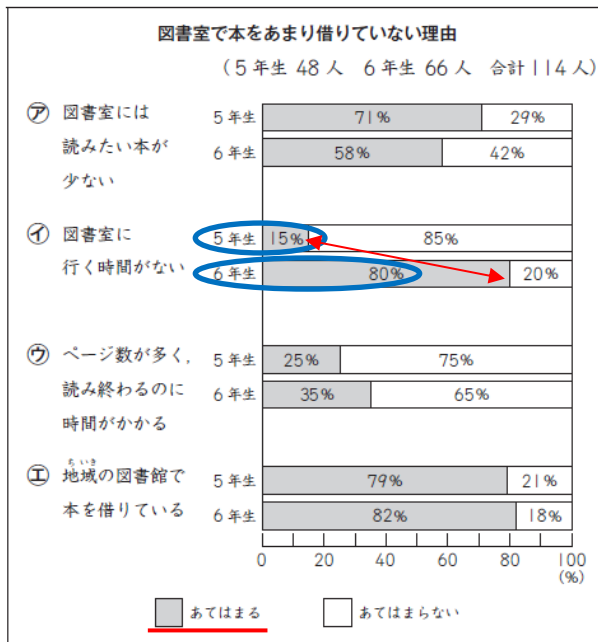
身の回りの事象について統計的に問題を解決するために、集めるべきデータを判断したり、分類整理したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができる。

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書室で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書室で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがあるのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話合っています。

そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の⑦から⑩までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらい項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

◆帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できる力が付いています。また、言葉と数を使って答えるという条件に合わせて記述することができます。

正答例

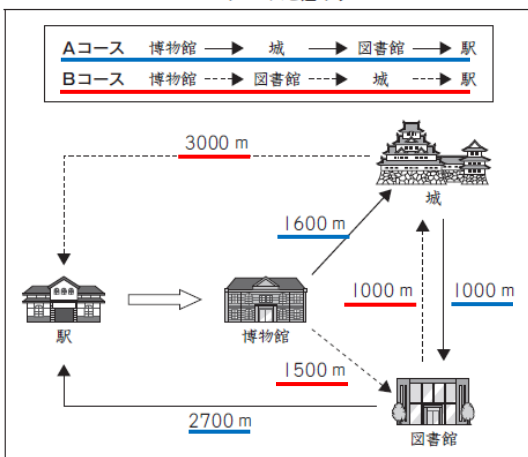
5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は図書室に行く時間がないです。  
5年生が15%で、6年生が80%です。

【課題となかった問題】

たけるさんたちは、地域の昔のことに調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

(1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

2つのコースと道のり



たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。

Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。  
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理することができる。

◆二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

正答例

Aコースの道のりは、  
 $1600 + 1000 + 2700 = 5300$  で、5300mです。  
Bコースの道のりは、  
 $1500 + 1000 + 3000 = 5500$  で、5500mです。  
だから、 $5500 - 5300 = 200$  で、200m短いです。

複数の情報の中から、確実に必要な数値を選んだり、情報を整理したりする力、そして順序だてて記述する指導、日常的に自分の考えを書く取組の継続が必要です。